

第 39 回 TADESKA (2010/05/08)

テーマ：

「初習者のより効果的なスペイン語学習のために教師としてどのような工夫やアドバイスができるか」

溝田のぞみ

- 1) 論文内容の紹介
- 2) 情報・意見交換

今回扱う論文

齋藤華子

「初級スペイン語学習者の学習ストラテジー調査」清泉女子大学紀要 56, 2008. pp.17-30.

（“Las estrategias de aprendizaje en el nivel elemental de español: un estudio práctico”）

1) 論文内容の紹介

1. はじめに (p.17)

- 近年の日本におけるスペイン語教育への関心の高まり
 - ◆ 何をどう教えたらいいのか？ 様々な意見と議論
 - ◆ レベルや目的など学習者の多様性を考慮に入れた教材の出版
 - 教材や教授法をいかに工夫しても、同じ条件下（教室、教材）で授業を行っても、学習成果に関しては、個人差が生じる。
- 外国語学習における成果の差について、学習者の適性や性格、動機等の様々な側面からの研究
 - 学習ストラテジー研究

学習ストラテジー (learning strategies) 研究とは

効果的な学習には、教師の教え方のみならず、学習者自身が独自の学習方略を見つける必要がある。より良い外国語教育を目指す場合、学習者の内的過程を知ることも欠かせない。外国語学習者はどのように新しい言語情報を記憶、理解、産出しようとするのか、その学習過程に注目する研究。(以下、学習ストラテジー=LS)

- 日本ではスペイン語学習者の LS に関する実証的研究がほとんど行われていない
 - 日本人スペイン語初級学習者を対象に LS 使用を調査

2. 学習ストラテジー研究 (p.18)

2.1 外国語学習成功者の研究

- Oxford (ストラテジー研究の第一人者) による LS の定義 (1990)
 - 「学習をより易しく、より早く、より楽しく、より自主的に、より効果的に、かつ新しい状況に素早く対処するために学習者がとる具体的な行動」

- 優れた言語学習者 (good language learner) の研究=LS 研究の出発点
 - 優れた学習者の特徴を観察し一般に応用することを目指す

Rubin と Stern 優れた言語学習者の観察とその特徴のリスト化

◆ Rubin (1975)

優れた学習者7つの学習方略

- ① 自発的で正確な推測をする
- ② コミュニケーションしようという願望が強く、コミュニケーションから学ぼうとする
- ③ 学習上で誤りを犯すことを恐れない
- ④ 言語の形式に注意を払う
- ⑤ 言語使用の機会を求めて練習する
- ⑥ 自分の発話だけでなく、他の人の発話にも注意を払う
- ⑦ 意味に注意を払う

◆ Stern (1975)

「新しい言語学習に実験的、計画的に取り組み、対象言語の秩序立ったシステムを作り、そのシステムを少しずつ改訂していく」→メタ認知ストラテジーに近い項目

2.2 学習ストラテジー (p.19)

□ 1980年代 学習成功者の研究の発展→より具体的で体系的なLS研究へ

- ◆ 質問紙や面接によるデータ収集
- ◆ LSの定義や分類方法は統一されていない
- ◆ LSを認知・メタ認知の二つの側面から捉えるようになる
→メタ認知ストラテジーの重要性が注目される

認知ストラテジー

直接的に学習課題にかかわる、言語学習のための具体的な方略
→練習する、メモをとる、要約する等

メタ認知ストラテジー

学習効率をあげるため、学習者自らがとるストラテジー。認知ストラテジーの使用をコントロールするもの
→自らの学習を計画し、モニターし、評価する等

□ Oxford (1990)

- ◆ LSの包括的分類
 - ① 直接ストラテジー (目標言語に直接かかわる) > 認知ストラテジー
 - ② 間接ストラテジー (言語学習を間接的に支え管理する) > メタ認知ストラテジー
- ◆ 質問紙 SILL (Strategy Inventory for Language Learning) の開発
→共通の分類法に基づく調査の実施、様々な調査結果の比較検討が可能に

2.3 学習ストラテジーの実証的研究

□ 従来のLS研究で明らかになっていること

優れた学習者はそうでない学習者に比べて、多様なストラテジーを高頻度で使っている (Ellis, 1994)

□ 日本におけるLS研究：優れた学習者とそうでない学習者の比較

- ◆ 伴 (1989) 日本語学習者のLS実態調査
 - ① 一人の学習者が一つの学習課題に対して各種のストラテジーを使用

② 優れた言語学習者とは自ら適切な方略を見つけ、積極的に適用している言語の自主学習者
→メタ認知ストラテジーの重要性

- ◆ 西村（1993）再生刺激法¹を用いた日本語学習者の LS 調査
→成績上位者は使用ストラテジーの種類、使用頻度、とくにメタ認知ストラテジーの使用が多い
- ◆ 伊藤（1994）
日本語学習者の学習スタイルと LS の関係を調査（SILL を利用したアンケート）
→学習ストラテジー使用頻度の高低が学習結果に現れる
- ◆ 木村他（1995）日本人英語学習者の LS 研究
→英語学力得点の順位と LS の量的使用およびメタ認知ストラテジーの使用の間に相関性（帰国学生＞一年以上の海外生活体験者＞一般学生）
- ◆ 竹内（2003）
英語専攻の日本人大学生に英語学習記録をレポートさせる成績上位群と下位群の比較
①上位群は自分の学習方略を強く認識（レポート記述量が多い、記述内容が具体的）、
②上位群は使用ストラテジーの種類が多い
- ◆ 原田（1998）フランス語を学ぶ日本人大学生の使用ストラテジー分析
成績上位群・下位群のストラテジー使用の違い
① 両群とも認知ストラテジーとメタ認知ストラテジーの使用が多い
② 上位グループの方が使用するストラテジー総数が多く、種類も多い

3. 目的（p.21）

- 四年間同言語を学ぶスペイン語専攻生にとって、学習期間の早いうちに LS を認識することが大切
→以下の点について質問紙調査の結果から検証
 - ① スペイン語学習を始めて間もない大学生が LS をすでに意識しているのかどうか
 - ② どのような LS を意識しているのか
 - ③ 成績上位群の用いている LS
 - ④ 上位群と下位群の使用 LS の違い

4. 調査

4.1 調査対象者

- 清泉女子大学スペイン語専攻 1 年生
 - ◆ 初学者（海外経験なし、ないし一年未満）48 名
 - ◆ 必須スペイン語授業数は週 6 回（日本人、ネイティブ教員 3 クラスずつ）
 - ◆ 3 回の小テスト（各 100 点）の結果をもとに成績上位群・下位群に分類
上位群 14 名

¹ 日本語初級の授業をビデオに録画、授業後、録画を見せながら、授業中に考えたことを報告させる方法

下位群 15 名

4.2 調査方法

- 2008 年 7 月、調査者自らが質問紙調査を実施
 - ◆ アンケート結果は授業の成績評価には一切関係がないことを強調
 - ◆ 被験者には「学習ストラテジー」という用語は使用せず

4.3 質問紙 (p.22)

- 学習調査項目
 - ◆ 被験者の学籍番号、海外滞在歴、スペイン語を含む外国語学習歴、スペイン語の学習理由
- 学習ストラテジー項目
 - ◆ SILL、伴、竹内らの調査を参考に、スペイン語初学者であることを踏まえて設定
 - ◆ 具体的なスキル別のストラテジー²を各 4 項目ずつ
 - ◆ メタ認知ストラテジー 6 項目
 - ◆ 計 30 項目
 - ◆ 「とてもよくあてはまる」～「まったく、またはほとんどあてはまらない」の 5 段階

5. 結果および考察

5.1.1 頻度の高い学習ストラテジー

- 得点 3.5 以上のものを通常使用する LS とする (Oxford, 1990) → 2/30 項目のみ
 - ① 単語を何度も書いて覚える (項目 3)
 - Cf. 竹内の調査では (2003) 「声に出して」「文で覚える」とする記述が多い
スペイン語には声に出して読む練習を軽視する傾向がある？
 - ② 聞く力をつけたいとき「ネイティブの先生のスペイン語を集中して聞く」(項目 23)
-
- 時々使うストラテジー (2.5 以上) は 21 項目 (=7 割)
 - メタ認知項目も「時々使う」程度の回答のみ

→学習を始めて 4 ヶ月、学習方法を探している試行錯誤の過程にあり、学習全体を円滑に進めるための方略 (メタ認知) についての認識も薄い

5.1.2 頻度の低い学習ストラテジー

- 書く力をつけるためのストラテジー (項目 13~16)
「一般的には使わない (2.4 以下)」「一度も、あるいはほとんど使わない (1.4 以下)」
→1 年の前期段階の学習者の中では重視されていない可能性
 - リスニングに関するもの
 - ◆ テープや CD を聞き、細部まで理解しようとする (項目 17)
 - ◆ ディクテーション練習を試してみる (項目 18)
- やはり学習初期の段階であることが関係しているのでは？

5.2 成績上位群・下位群の差異

5.2.1 平均値の差

- 上位群のストラテジー平均得点 3.1
- 下位群 " 2.6

² 単語、文法、スピーキング、ライティング、リスニング、リーディング

→上位群の方が下位群よりもより高頻度にストラテジーを使用

5.2.2 上位群が通常使用するストラテジー

□ 通常使用するストラテジー (3.5 以上) が計 10 項目 (下位群では 0 項目)

→上位群は下位群よりストラテジーの種類、項目数ともに豊富

□ 文法を学ぶためのストラテジーの得点が高い

- ◆ 文法についてノートにまとめる (項目 7)
- ◆ 他の言語の文法と結びつける (項目 8)

□ リスニング

- ◆ ネイティブの先生のスペイン語を集中して聞く (項目 19)
- ◆ 内容の大体の流れを理解するように聞く (項目 20)

cf. 竹内 (2003) の大学生上位群の記録

学習の初級後半～中期前半：一時一句細かく聞く

中期後半～：大体の話の流れを理解するように聞く

□ リーディング

- ◆ 意味の分からない部分は文脈から推測 (項目 22)

□ メタ認知ストラテジー (一項目のみ)

- ◆ いろいろな方法を見つけてスペイン語を使うように心がける (項目 25)

6. 結論

□ 初級学習者は全体の 7 割の LS を時には使用

→特に意識的に用いている LS

単語を何度も書いて覚える、ネイティブの先生のスペイン語を集中して聞く

□ 成績上位群は下位群よりも LS の頻度・種類ともに多い

→特に文法学習

□ メタ認知ストラテジーについては、上位群が特に際立っているとはいえ、初級者には自覚されていないようである。

7. 問題点と今後の課題

□ 問題点

- ◆ 質問紙の項目が限られていた
- ◆ LS の知識のない学生に質問項目が理解できたのか
- ◆ 質問紙に学籍番号を記入させたため、回答に影響を与えた可能性がある
- ◆ 成績上位群・下位群を作る基準が文法小テストの得点であったことが調査結果に反映されていないか？

□ 今後の課題

- ◆ 質問紙、調査方法を検討、改善する
- ◆ 追跡調査の必要性
 - ① 学習がさらに進んだ段階で LS 使用は変化するのか
 - ② スペイン語力と LS との関連の検証

2) 情報・意見交換

□話し合いの内容 (⇒はコメントに対して別の人が出した意見やコメント)

◇ 学習ストラテジーをめぐる意見

- ・例えば単語を書いて覚えるというのはストラテジーといえるのか？単なるテクニックではないのか？
- ・学習ストラテジーとは、結局はテストで好成績を収めるためのものなのか？
- ・何を学習目標とするかによって、ストラテジーも変わってくるはずである。
- ・Oxford の設定項目には学習ストラテジーとコミュニケーションストラテジーの混同がみられる。

◇ 齋藤論文の調査結果に関するコメント

- ・ライティングに関する項目の得点が低いという調査結果が出ている。本論文では調査時期が影響しているとの分析がなされているが、一般的に言って、ライティングの学習はおろそかにされる傾向があるのではないだろうか？日本人教員はライティング指導を避ける傾向がないだろうか？
- ・成績下位群の方が得点の高い項目がいくつかあるが[調査項目 5（スペイン語の文法を学ぶために参考書を使う）、13（定期的にスペイン語を書いて、添削してもらう）、16（スペイン語で日記を定期的につける）]、その理由は？
⇒調査が実施されたのが、学習開始後比較的初期の段階である。このような取り組みを続けた学生が結果として実力をつけ、後で伸びてくるという可能性もあるかもしれない。学習ストラテジーによっては効果が現れるのに時間がかかる場合もあるのでは？
- ・リーディングに関する設定項目のなかに、「スペイン語の文を読むとき、意味のわからない部分は文脈から推測する」というものがあるが、このようなストラテジーは精読をおろそかにする危険がないだろうか？
⇒個々のストラテジーにはそれぞれ長所と欠点があるので、複数のストラテジーを組み合わせる利用することが大切なのではないか？

◇ 学習者としてのストラテジー実践体験

- ・授業中に時間的余裕を持ち、効率よく受講するために予習の仕方を工夫（講読の授業の予習で、訳だけでなく文を全てノートに書き写しておくなど）
- ・スペイン語学習には英語の知識が役に立たないこともある反面、英語に関連付けて覚えるメリットもあった
- ・映画や音楽を積極的に利用したり、ネイティブをつかまえて練習するなど、攻めの姿勢で学習
- ・フレーズをひたすら暗記する
- ・会話クラブに入る、留学するなど、敢えて厳しい環境に身をおいて切磋琢磨する

⇒ただし、留学で会話力は向上しても、ライティング力が低下してしまう学生もみられる。留学先でどのような学習方法をとるかも大切。

◇ 学生の学習効果を高めるために教師として行っているアドバイスや工夫など

- ・小テストで相互採点させることにより、自分の理解度や学習姿勢を客観視させる。人の答案を分析的にみることで学ぶことは多い。
- ・テストの終わりに、学生に自分自身を振り返らせるための反省項目を設ける。
- ・学期の初めに学習アドバイスを行う（復習すべし、その日の授業であいまいな点を残して帰らないこと、学習の道筋と全体像を示し何をどこまで学ぶのか教師と学生の間で目的を共有しておく、など）
- ・五感をフルに働かせた学習が有効という脳科学の説を学生に紹介し、単語や文を書く際、または暗記の際、音読すると記憶に残りやすいとアドバイスする。
- ・学習ストラテジーは学生に押し付けるのではなく、複数選択肢を提示し、その中から学生が自分にあったものを取捨選択すればよい。

